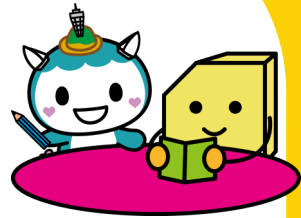


歴史と地形からみるふじさわ ～『昔』から『今』を知る



2023年1月12日（木）・1月19日（木） 全2回開催

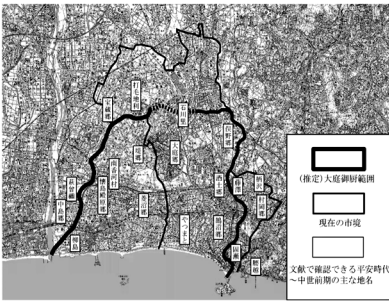
ふじさわ探キュン講座は、藤沢市に転入してきて日が浅い方など、藤沢をまだよく知らない方を対象に、藤沢の成り立ちや歴史、特産品に触れてもらい、郷土愛を育み地域への関心を高める学習機会を提供する講座です。

ふじさわには歴史ある場所や特徴的な地形がたくさんあります。いま話題の鎌倉武士の藤沢にまつわるエピソードと、地形の成り立ちから見るいまの藤沢の話を通じて、藤沢の『今』と『昔』に目を向けることを目的に本講座が開催されました。

第1回 藤沢の武士団・大庭氏

～その始まりから表舞台からの退場まで～

第4図 大庭御厨推定範囲図



第1回は、藤沢市役所郷土歴史課学芸員の宇都洋平を講師に、藤沢の武士団・大庭氏の始まりから表舞台からの退場までの講義を行いました。桓武天皇の曾孫である高望王が臣籍降下で平姓を名乗り上総介の位に任命され、子息を率いて任地の上総国に赴くところから学びました。当時藤沢は相模国、横浜市北部・川崎市は武蔵国と呼ばれていたというお話もあり、現在の私たちの住む藤沢に繋がるお話がありました。参加者からは、講座資料の武士の家系図がとてもわかりやすいというお声をいただきました。当時の藤沢の地図から鎌倉武士が藤沢のこの地で、私たちと同じよう

に時代を生きていたことを知り、藤沢の歴史により興味を持つことが出来ました。また、鶴沼、俣野、大庭、石川が当時からある地名であること、白旗周辺は当時酒土と呼ばれていたことなどの話もあり、藤沢の地名についても知識を深める機会となりました。

第2回 藤沢という地の成り立ちを知ろう

～「いま」につながる地形のおはなし～

聖天島に残る波打ち際跡 ノッチ



元禄地震前の波打ち際



第2回は、神奈川災害考古学研究所代表の上本進二氏を講師にお迎えし、藤沢の地形の成り立ちについてお話していただきました。300万年前フォッサマグナに付加体（堆積物）が流れ込むことにより南関東が出来たこと、藤沢市は複数の地層から形成され、藤沢低地は波によって運ばれた砂が徐々に砂嘴・砂洲になり入り江が塞がれて、今の地形になっていったことを学びました。また、江の島は古い地層（葉山層）に関東ローム層（富士山と箱根からの火山灰）が乗っている特殊な地形で、200～

100年前に、陸と繋がる陸繋島になったことを教えていただきました。元禄地震と関東大震災によって江の島が隆起し、海岸線が現在の場所になったお話では、地震の巨大なパワーと、隆起し平地が出来たことで漁村になり現在の江の島になったことを知りました。

藤沢という地がどのような変化を経て今の形になったのか、大変興味深く学びました。